

(議長)

次に、「萩原議員」の発言を許可致します。「萩原議員」。

「萩原議員」

はい、議長。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

それでは、早速、質問に移させていただきます。

1 問目、横山家についてでございます。横山家については、これまで議会の場において、数回にわたり質疑が行われてきたところでもあります。この間の町長や教育長の答弁を見る限り共に江差町の観光資源として、重要な位置を占めているとのことでした。このような中、今年の歴まち街区の人の流れについて、先般、お聞きしたところ、横山家の閉鎖が影響して、かんばしくなかったとの声を多く聞いたところでもあります。私と致しましても横山家は、江差町にとって現存する本物として、重要な価値があるものと考えており、横山家の営業の再開を切望するものであります。これらを踏まえ、私の方からこれまでの横山さん側との交渉の経緯や今後の観覧再開に向けた見通しについて、お聞き致します。

また、すでに閉鎖してから6ヶ月が経過していることから、相手もあることながらスピード感を持って、取り組まなければならないと思います。このため、今年中など一定のタイムリミットを設けながら、交渉、あるいは町の方針を示すべきと考えますが如何ですか。

次に、建物のことについてお伺いしますが、ご承知のように建物の老朽化も進んでおり、特に、跳ね出し部分については、この冬にでも倒壊する恐れがあると思われませんが、これらに対する町の所見と応急措置などを含めた支援策などについてどのように考えているかお伺いします。

(議長)

はい、「教育長」。

「教育長」

横山家の現状と今後の見通しについて、交渉の経過や今後の観覧再開に向けた見通しについての質問でございます。横山敬三さんの逝去後、ご長系の弘氏と横山家の今後について、これまで5月から11月まで7回に亘って面談協議を重ねて参りました。7月の段階で観光シーズンだけでも、開館が出来ないか。その可能性について協議をしたところ、防犯上の問題、あるいは、所蔵物品の管理、施設小破の場合の対処など、開館にあたっては

課題が多いことを双方で確認した結果、休館することとし、開館を見送ってきたところでございます。しかし、横山家は北海道、江差町にとっても重要な文化施設であり、観光施設でもありますので、引き続き様々な課題の協議を進めた上で、再開の可能性を、可能性を検討して参りたいと考えております。

次に、一定のタイムリミットを設けながら交渉し、町の方針をすべきではというご質問ですが、これまでも横山家の将来的な在り方につきまして、横山氏と面談をして参りました。横山氏からは親族での維持管理は難しいとの見解から、公的機関による管理を要望されております。町としてはまず、相続者の手続き及び所有権の移転手続きを進めて欲しい旨申し上げてきました。現在、その手続きを進めていると伺っております。そのため、諸課題が整備されしだい横山家の意向を踏まえつつ、町としての方針、考え方を整理して参りたいと考えております。横山氏の諸事情もあることから、タイムリミットを設けることは難しいと考えておりますが、これまで同様、横山氏とは話し合いや協議を進めて参ります。また、早急に北海道教育委員会とも横山家保存に向けた支援策の有無等について、協議もして参りたいと考えておりますので、ご理解をお願い致します。

次に、横山家の保存にあたって、跳ね出しが倒壊の恐れがあるとの指摘でございますが、町の所見と応急措置等の支援策は、どう考えるかという質問でございますが、現在の跳ね出しの状況につきましては、過去の調査などから危険であるとの認識はしております。また、横山家が開館していた当時も、内部の跳ね出しへの見学は危険のため、立ち入り禁止となっております。そのため、早急に修繕が必要との見解は理解しておりますが、現状ではまだ、横山家の相続登記が終了していない状況で、町が個人所有財産に手を加えることは、難しいと考えております。来年、1月から2月に横山氏が江差に帰省することとなっておりますので、その際にも面談をして、お互い今後に向けた横山家の在り方について、膝を交えて話し合っていきたいと考えておりますので、宜しくご理解をお願い致します。

(議長)

はい。「萩原議員」。

「萩原議員」

なかなか先に進んでないというような答弁でございますけれども、町長の9月の所信表明の中に、稼ぐ観光まちづくりの推進とあります。しかし、横山家の閉館に伴い、いにしえ街道の商店はですね、観光客の売り上げは、減少しているというような話を聞いております。なかなか稼ぐ観光を目指す江差町としては、本当に痛い部分ではありますが、本当に町として横山家をどうするかという打診を本当に早期に打ち出すことが大切と考えますが、如何でしょうか。

(議長)

「追分観光課長」。

「追分観光課長」

観光面からのお話しということで、宜しければ、私の方からご答弁させて頂きたいと思
います。

萩原議員言われるように、江差の観光にとって横山家の閉館というのは非常に大きな痛手
です。観光施設、横山家さんに訪れる大型バスも非常に姿がなくなってきたなっているの
が、担当としての実感です。議員から一般質問の通告があつてからですね、近所のお店を
数件回って来ました。その際伺つたお話では、横山家の閉館が直接的な要因ではないと。
ただし、間違いなく人通りが減ってきてるというお話です。

もう1つは、やっぱりこう姥神の方にとって見れば、横山さんが閉館してるのが非常に
寂しいというお話を伺ってきたところです。そういう意味で言えば、今まさに日本遺産で、
などの補助事業だとか、あるいは先程来、西海谷議員の一般質問の答弁、あるいは町長の
答弁などにありますように、観光DMOを立ち上げました。鷗島からいにしえ街道中心に
ですね、江差の観光、しっかりそのPRしながらで、町中にたくさんの方が入って頂くよ
うに、地域の住民と協力して町中で体験、魅力的な体験が出来るような、そういうプログ
ラムを作って、発信し、お客さんを町中に散策させる。そういう手立てが必要だと思つて
います。止めることなく、これからもそういう事業を展開して参りますので、ご理解頂き
たいと思います。

以上です。

(議長)

いいですか。

「萩原議員」

はい。

(議長)

はい。2問目ですか。

「萩原議員」

はい。2問目に入ります。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

商店街の活性化について、でございます。町長の選挙公約に、愛宕町商店街（下町）と法華寺通り商店街（上町）を商業拠点化にとありますが、来年度の予算編成時期を迎え、具体的イメージ等があれば、お示し願いたいです。

また、これらの商店街には、中央商店街や、歴まち商店街が組みされないのかお伺い致します。更に、既存商店改修などへの、一部助成とありますが、どのような内容かお聞かせ下さい。

また、これまで町の施策として、商店街の活性化に向け、商工会を通じてがんばる商店街補助や、過去には買い物バスの運行、プレミアム、プレミアム付き商品券の発行など、行って参りましたが、町としてこれらの事業に対する効果、検証をどのように行っているのか、お聞かせ願います。

また、町として、現在の商店街の状況をどのように捕えているのか、そして、それらを踏まえ、来年度予算に向けて、町長公約とは別に検討している施策などがありましたら、お聞かせ願います。

（議長）

はい。「町長」。

「町 長」

萩原議員のご質問、商店街の活性化についてであります。まず、下町と上町の商業拠点化についてご答弁申し上げます。

私の公約に掲げている愛宕町商店街と法華寺通り商店街とは、市街地エリアにおける代表的な商店街を中心にしたものでありますが、商店街内で商店街を形成している地域全体の賑わい作りも含めた検討を進めていきたいと考えております。具体的な施策と致しまして、各商店街が実施するイベント回数を増やし、イベントへの町民の移動手段として、買い物バスを運行し、町民や観光客にも足を運んで頂き、商店街の賑わいと活気を創出し、地域経済の活性化に取り組んで参りたいと考えております。

次に既存商店改修などへの一部助成についてですが、既存の商店街では、空き店舗の増加と併せ店舗の老朽化が進んでおり、何らかの対策が必要であると考えております。既存店舗の改修や空き店舗を活用した新たな商売に取り組もうとする企業者への支援など、商店街の賑わいの創出に繋がる効果的な制度設計を検討して参りたいと考えております。

次に2点目の商店街活性化に向けた町の考え方ですが、各補助事業については、事業終了後、実績報告書の提出を頂いており、実施内容と併せて、補助事業実施による効果を報告頂いております。がんばる商店街事業についても、イベントの集客やイメージ、知名度のアップが図られ、賑わいのある商店街作りに寄与したとの効果報告がなされております。プレミアム商品券は利用者にアンケートを取りながら、効果を検証しており、地

元消費の拡大が図られ、町外への消費流出や、新規の消費誘発効果が得られるなど、地元商店への経済波及効果があったとの報告を受けております。商店街の状況につきましては、江差町の人口減少や高齢化に伴い、商店街でも店舗数の減少が続いており、商店街の賑わいが縮小してきていると考えております。

最後に町長公約以外の施策についてであります。古くから地域社会に密着してきた商店街は、単なる買い物の場所だけではなく、地域住民の交流の場であり、安心安全を守る存在であり、地域と共に歩む必要不可欠な存在であると考えております。新たな商業振興については、今後商工会や商店街など各関係機関と協議検討していきたいと考えておりますので、ご理解を願いたいと思います。

(議長)

いいですか。「萩原議員」。

「萩原議員」

はい。ただ今の町長の答弁ですね、また新たなイベントなどで集客したいと言う様な答弁ありました。これにつきましては、9月の所信表明でも述べておりますが、イベントは確かに皆さん、何かやって欲しいという声があるとしても、やる商店街等に致しましてはなかなか大変でございます。私は、イベントは一過性のものと考えて、考えておりますし、ましてや江差町は現在でもイベントの多い町で、だと考えております。歴まちを例にたとえると、組合員は高齢化し、手伝い等が本当に不足して、イベントやるのにも毎回いろいろな所で言うておりますけれども、役場の職員や振興局の職員などをお借りしてやっているような現状の中で、これ以上イベントを増やしてやって行くのは、私自身どうかと考えておりますが、それにそういう現状を踏まえながらも、また、新たなイベントで集客をしていくのかどうか、お聞かせ願います。

(議長)

はい、「産業振興課長」。

「産業振興課長」

はい。萩原議員の2問目の質問ですけれども、イベントですね、役場が開くとかっていうことではなくて、やはり既存の商店街なり、いろいろな団体がですね、地域の活性化のためにイベントを開催して頂く。これは大規模なイベントという意味じゃなくて、これまでやっているようなイベントの回数を増やす、もしくはある程度、定期的に行うというようなことをしながらですね、ここに来て頂くお客さんが、例えばですけども、何月の第何週になればあそこでイベントがやっている。次の週になれば、どっかでまた、イベントをやっている。そこにこう足を運んでお金を落として頂くような、システム作りが出来ないか

というのが、役場の考え方だということです。これは当然、うちが一方的にですね、考えて出来るのではございませんので、商店街なり、関係団体と協議をしながら出来るだけこういう仕組みを作って行きたいと。そこに対して江差町としても、支援体制を組んで行くというような考え方を持っているということです。まだ具体的にですね、各団体と協議しているわけではございませんので、今後、団体のご理解を得られる範囲の中でですね、協力をしながら、イベントの回数を増やして行く、というようなことを考えたいという内容でございます。ご理解頂ければと思います。

(議長)

いいですか。「萩原議員」。

「萩原議員」

はい。解かりました。

それですね、もう1つ、1点。既存商店への改修などの一部助成は、今検討するという内容でございました。現在も、まちづくり交付金がありまして、新規出店者の改修等には、条件はありますけれども、助成というものがありませんけれども、これと違った形でのまた助成ということの考えで宜しいのかどうか、答弁願います。

(議長)

はい。「産業振興課長」。

「産業振興課長」

こちらについてもまだ、具体的に制度設計されているわけではございませんけれども、プレミアム付きのですね、住宅の改修なんかもこれまでやって参りました。その中で、地域の方々からは商店でもそういうような改修が出来ないのかというような要望がまず、あるということ。それと旅館に対しての既存の旅館に対しての改修についての支援をして参りました。けれども、一般の商店に対する支援がないのかという要望がありましてですね、当然、商店を見た時もやはり、古くなってきて建て替え、もしくは改修が必要になってきている所もありますので、これに対する支援が何処まで出来るのかということについての制度設計、これからですね、組みながらそういうような支援を考えて行きたいなというふうに思っております。

(議長)

いいですね。

「萩原議員」

はい。

(議長)

はい。以上で、萩原議員の一般質問を終わります。

1 1時25分まで、休憩致します。